

北大病院温室 札幌 古屋 統

温室のバナナ仲々寒らぬを恨みし近所の凍垂れっ子われら
温室のバナナの下でオバチャンが湯上がりの髪撫でていました
遠き日は叔母とも見えし女人像七十年経れば孫のごときか
温室の隣に食堂裏二階謝恩会場床軋みつゝ卒業の記念アルバム少女像囲みしグループ幾人か残る

寒一、二月 帯広 中野 知弘

寒深夜 盗人は誰ぞ凍れたる餡餅をしてレンジオペなす
人の世の冬を知らにと花シャツをうちに纏ふて出づる夜の街
戦ける中学の友の声黙ゆ 悪性ならずT・BとTEL
殺戮の旗そは三色旗 フランスは血風ヴァンデ野のジエノサイド
植民地、遠き言葉となれりけり誰が忘れざるそのErlöserを

混沌 札幌 山口 康徳

夷々と地軸ゆるがすキャタピラに啓蟄の虫息ひそめあつ
キャタピラの音に驚きしマグマらは噴きあく火をば控へるがに
派手なこと好むとつくに渾身のアクションなりやこのたびのこと
自己主張打つかり合ひて弱きひと右往左往し安住の地なく
政治には関りなしと若人ら渾身ふるひ世界かけるつ

北海道医報歌人会詠集

豊旗の雲 札幌 魚住あらた

けふをしも寒あけのいま風光る
つくづくたれる豊旗の雲
歳々に人生がありけふをしも
風やはらかに光りてほしと
けふをしもわが明日にあるよと
つと想ひ阿吽がほしとつくづくたりき
けふをしもたれかれの星つと想ひ
つくづくまぢし風が光れる
けふをしも冬ざれの雪つと想ひ
つくづくたりき山は眠れる

近時雑詠 札幌 小国 孝徳

四年修了なれば吾らより若かりきを羨し
き数珠をまさぐる (悼田川貞嗣君)
彼の岸に到りて思ひ出づることあらむ過褒の
数々抱へきれぬ花束 (歌集出版祝賀会)
性交をブッシュブッシュと言ひ居りしニュー
ギニアの民を想ふ何ゆゑ
終るべくして戦も終りたりチャンネル替へて
野球を見むか
「運命」の流るる中に吾がゴジラ満塁ホーム
ランを放ちたるはや

